

2019.11.14

出向いて聴いて実践 組合員と対話を 一自己改革さらに一

JA 三原は、組合員からJAへの課題や要望を聞き、事業運営に反映しようと役員による担い手訪問を実施しています。認定農業者や集落法人などを対象に進めています。

西原常雅組合長ら役職員が水稻経営の集落法人「(農) あぞうばら」や「(株) ライスはただ」を11月中旬に訪問し意見交換をしました。

2018年7月豪雨災害からの復興支援事業や農産物販売の強化方針などの取組みを説明し、法人側からは、中山間地域の農業振興に対する期待や生産コストの削減などに積極的に取組むよう要望が出ました。

西原組合長は「いただいた要望や意見をJA事業に反映していき、自己改革を実践する」と話した。

役員による訪問と合わせて、今後は、同JA営農指導員や融資担当者などの実務担当者も訪問を行い、組合員の声を聞く運動を強化していきます。

